

Kids Wave きつずうえいぶ

第22号
2021年4月

社会福祉法人
大村子供の家

日本人と桜

今年も春がやってきました。「桜」をテーマとした歌やデザインは昔から多く、日本代表のユニフォームにも桜のモチーフが使われたりしています。日本人ほど桜を愛する国民はいないかもしれません。何故日本人はこれほどにも桜に思い入れがあるのでしょうか。

卒業式や入学式など、桜は毎年、人々の別れと出会いを見届け続けてきました。まるで我々がその時抱いた様々な感情に桜がそっと寄り添っているかのよう。一気に咲き誇り、そして美しく散る様に人生を重ねる人もいるかもしれません。大村子供の家の桜並木も75年以上前から殆ど変わらず、春の訪れを告げ、そして様々な別れと出会いを見守り続けています。日本人の心に寄り添う桜を、密を気にせず感じられる日々を待ち遠しく思います。



雨二毛負ケズ

雨にも負けず 風にも負けず 雪にも夏の暑さにも負けぬ 丈夫なからだをもち 慾はなく 決して怒らず

いつも静かに笑っている (宮澤 賢治)

クタクタになつたゴルを前にふと宮澤賢治の名言が浮かび、「お疲れ様でした」と一言。

大村子供の家グラウンドのサッカーゴールはこれまで20年以上雨風に耐え、また子どもたちのシートを無言で受け続け、ネットが破れるたびに地域のボランティアさんが修繕してくれましたが、最近は鉄のフレームが朽ちてきましたため、安全配慮から、今年3月で現役を引退することになりました。

この度、西日本新聞民生事業団様のご支援を得て、新しいサッカーゴールをいただき、子どもたちはまた元気にボールを蹴っています。いつも静かに子どもたちを見守ってくれた現役引退するサッカーゴールやボランティアさん、そして今回ご協力いただいた西日本新聞民生事業団様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



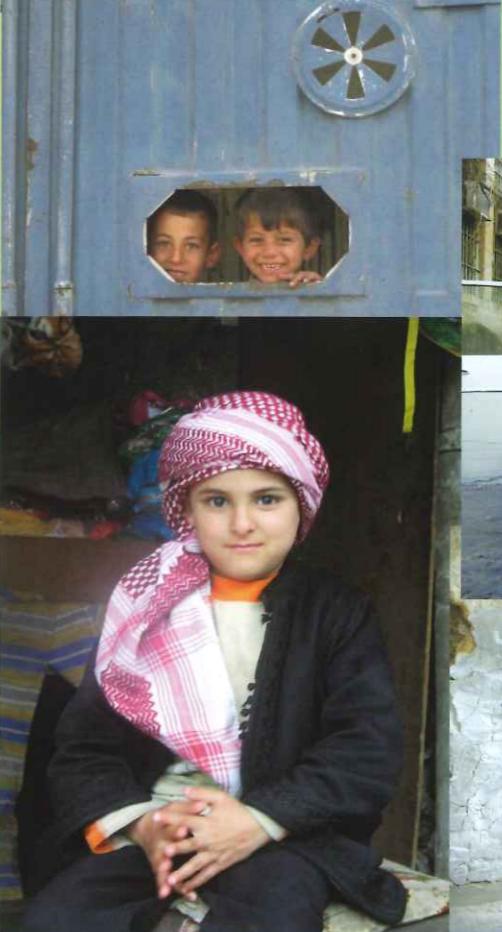
世界の国からこにちは シリア・アラブ共和国



～シリアの子どもたち～ 松本 幸治

子どもの笑顔は万国共通で輝いています。しかし、その笑顔が紛争など大人の事情で奪われてしまうのは非常に残念なことです。2006年から2007年にかけての8か月間、国際協力の仕事でシリア・ダマスカスに滞在した私は、休日ともなると旧市街を放浪し、そこで現地の子どもたちによく出くわしました。皆人懐っこく、東洋人に興味津々。慣れないアラビア語で「写真撮っていい?」と私が聞くと皆嬉しそうに応じてくれました。

あの時出会った子どもたちは今も元気に暮らしているだろうか。当時はまだ紛争が起こる前の平和な時代。数年後シリアが惨事に見舞われるとは、私自身も、また子どもたちも想像すらしていませんでした。子どもたちの笑顔を守るために大人が果たすべき役割は何か考えさせられます。



行事予定

- 4月・・・(キッズランド/児童のみ)1日 進級・入園を祝う会、28日 こどもの日の集い
- 5月・・・(子供の家)健康表彰・スポーツレクレーション大会
- 6月・・・(子供の家)九州児童養護施設研究大会



編集後記

人の失敗を非難しあう報道に嫌気がさしているのは私だけだろうか。世間の顔色をうかがい、まるで迎合するかのように失敗した者を叩く大人を見て、子どもはいじめを覚えるのかもしれない。人間の成長は失敗の上に成り立つと思う。叩きっぱなしではなく、許し、導く寛容さを社会が持たねばならない。KM

社会福祉法人 大村子供の家 〒856-0811 長崎県大村市原口町
591 番地 2 TEL 0957-55-8319 FAX 0957-55-4661



社会福祉法人
大村子供の家

b&g 放課後児童クラブ おおむら

～おやつカレンダー～



2021年3月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

チーズせんべい、卵焼き、いちご大福、ぎょうざ、ホットケーキ etc. 子どもたちが自分で作ったおやつのレパートリーは多岐にわたります。b&g おおむらには一ヶ月分のおやつの予定が分かるおやつカレンダーが壁に描かれており、そこに作りたいおやつを記入したり、今日のおやつの確認をしたり出来るようになっています。

三月に入り、下校時刻が少し早まり時間に余裕ができた子どもたち。お友達やスタッフと一緒に材料や作り方を調べてキッチンに立つ姿がとても楽しそうに見えました。今まで卵焼きを作ったことのなかった子もコツを教わりながら作るうちに自信がついたのか、おうちでも作ったよと自慢げな表情。

月に一回お誕生日おやつとしてケーキなどが出る日もあります。また、スタッフの手作りおやつの日は旬の食べ物や、季節の行事に関したおやつなど子どもたちがおいしく学べるように工夫しています。

b & g おおむらはおやつの時間をとても大切にし、子ども達の成長に少しでも貢献できるようにこれからも頑張っていきます。



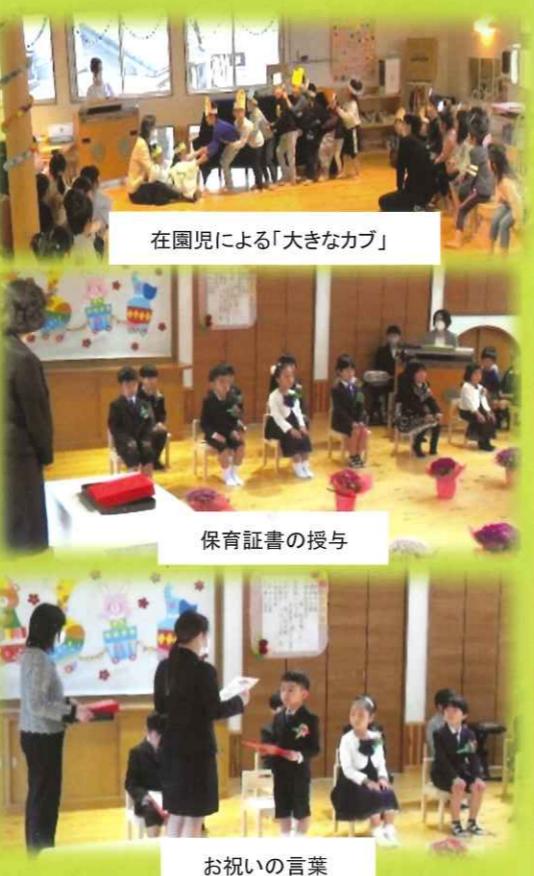
認定こども園 キッズランド 活動報告

お別れ会（くじら組さんありがとう） 3月12日（金）、くじら組園児の卒園式を前に在園児がお別れ会を開催しました。会は卒園児の自己紹介に始まり、各クラスの園児たちが練習した寸劇、先生たちによる「ハンドベル」の演奏が披露されました。「くじら組との別れは寂しいな」と感傷的な気持ちになりましたが、小学校への新たな一步。在園児・職員みんなが笑顔で送り出しができたお別れ会となりました。

卒園式（強い絆を大切に） 3月13日（土）、第2回 認定こども園キッズランドの卒園式をウィルス感染防止対策徹底の上で執り行いました。保育証書授与では、緊張しつつも自信に溢れ、名前を呼ばれると、手を挙げ大きな声で返事。園での楽しかったことを発表してから一人ずつ保育証書を受け取りました。また、第2部では2年間の担任から一人一人にお祝いの言葉が手渡され、色々な思い出が走馬灯のように過ぎていったようで、それぞれ涙がこぼれています。キッズランドで過ごしたくじら組の友達との強い絆をいつまでも大切にしてもらいたいと思います。

みんなで合唱した「さよなら僕たちの保育園」の中にもあった「たくさんの毎日をここで過ごし」「何度も笑って・泣いて・風邪をひいて」「たくさんの友達とここで遊んできたね」「どこで走って・転んで・喧嘩をして」「嬉しいことも悲しいことも、きっと忘れない」と園でのたくさんの思い出を胸に卒立って行ってくれると思います。そして「桜の花びら ふるころは ランドセルの一年生」です。4月からの小学校生活に希望をもって大きく羽ばたいてください。応援しています。

入園・進級 入園、進級のシーズンは、子どもにとって、新しい居場所、新しい先生、友だち……と、回りの環境が大きく変化する時期です。「子どもの健やかな成長」を念頭に地域に根差した子育てを心がけてまいります。ご協力をお願い致します。



児童養護施設 大村子供の家 しいたけ栽培

子供の家の農場でシイタケを育て始めて4年ほどが経過しました。秋から春にかけて子どもたちと収穫に出かけますが、取れる日もあれば、全く取れない日もあり、行ってみないとわからない感じです。しかし、4年ほど経つうちにいくつかの発見がありました（1. 雨が降った次の日晴れが続けなりやすい。2. 真冬は成長が遅いがコリコリして旨い。3. 春先は虫が入りやすくなる等々・・・）収穫してきたシイタケは各ホームの食卓に並びます。シイタケ嫌いの子が多いホームから「またシイタケ～ もう取ってこんで」と言われることもありますが、「原木シイタケはスーパーで買ったら高いよ～」と言い、ありがたく食べるよう促します。

今後、放課後児童クラブやこども園の子どもたちにも気軽にとっともらおうと、3月上旬に地元の農家さんやシルバー人材センターの方々と一緒に3度目の菌打ち作業を行いました。中には慣れた手付きで菌駒を打ち込んでいく子や、途中で飽きて遊び始める子もいました。菌打ちされた木は、菌がまわるまで1年半寝かせた状態にし、うまくいけば再来年の秋に収穫できます。自然の恵みに感謝しつつ、今後も子どもたちと育てるここと、収穫すること、食べることを楽しみたいと思います。



小規模保育園キッズホーム わたげの会



3月27日にキッズホームでわたげの会（卒園式）が行われ、5名の子どもたちが元気よく卒立っていました。時間が過ぎるのはあっという間で、この前までよちよち歩きだった子どもたちが今や立派なお兄ちゃん、お姉ちゃんになり、4月から新しい環境での生活をスタートさせます。2020年は疫病や自然災害などが重なる大変な年となりました。何かと制限も多く、子どもたちに十分保育園を楽しんでもらえたか不安ではありましたが、立派に成長した子どもたちの姿を見て、安心した気持ちになりました。無事にわたげの会を迎えたのも、保護者の皆様のご理解とご協力のおかげです。

わたげは心地よい春風と共に空高く舞い上がり、新しい世界を求めて旅を始めました。新しく降り立った大地に根を下ろし、ぐんぐん成長し、美しい花を開かせることでしょう。子どもたちの安全と、今後益々の成長をキッズホーム職員一同願っております。また遊びにきてくださいね。

ご寄付・ボランティア御礼

普段より大村子供の家に対するご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。今年もカーブス様より児童養護施設に対し「フードドライブ事業」を通じ、たくさんの方の食料を頂戴し、さっそく施設の子どもたちや一人暮らしをしている卒園生に配らせていただきました。食べ物という形での仕送りを通じ、卒園生の近況確認ができ、職員一同助かっております。元気の源は食べることから！皆様の思いの詰まった食料ご寄付に感謝申し上げます。

